

## 令和5年度 第1回 総合教育会議 議事録(概要)

1 日時 令和5年5月9日(火) 16:30~17:30

2 場所 県庁講堂

3 出席者 知事、教育長、教育委員4名、有識者委員5名

4 議題 三重県教育施策大綱案について

5 主な意見 (○:教育長、教育委員 ◎:有識者委員 ●:知事)

- 子育て支援や家庭教育の支援について、前回の総合教育会議での意見をふまえた内容となっていてとてもよかった。

家庭教育は教育の原点であり、全ての家庭が安心して子育てをするために、社会全体で家庭教育を支えることが大切。特に子育てに悩みを抱える家庭への支援については、困ったときにいつでも相談できるような仕組みづくりやリフレッシュできるような場の提供が必要だと思っており、大綱で記載されていることを社会全体で取り組んでいくことが大切。

幼児期の読書経験を積み重ねることは、子どもたちが豊かな心を身につける上でとても大切。幼児期にいろいろな絵本を読んでいる子どもは、多くの言葉に触れることで言語力を身につけ、創造力や表現力が豊かになり、さまざまな状況を判断して自分の思いを相手にうまく伝えることができているように感じる。絵本を通じて相手を思いやる気持ちなどたくさんの学びがあると思うので、大綱をふまえて、積極的な読書活動の取組が進められることを期待する。

- 「主体的に社会の形成に参画する態度の育成」(8ページ)に、「自立した社会人となるための基盤」をつくるというような文言が追加されておりよかった。

最近の社会人はコロナという大きな要因もあって、体験をすることがほとんどないまま、社会に出てきたのではないかと思う。今後、教育現場において、子どもたちがさまざまなことを体験し、喜びや痛みなどを感じられるような学校生活を過ごすことができる取組が進められることを期待する。

「自己実現に向けた学び」にあるように、スキルが備わった人が増えると三重県の企業としても強くなっていくと思う。ある程度の社会性を身につけた子どもたちを育て、社会に送り出していくような教育を進めることが大切。

- いじめの認知件数についての説明(3ページ)は県民の方には伝わりにくいのではないかと。認知件数が多いことは、いじめの数が多いと誤解される可能性があるため、少し表現を検討してはどうか。

教職の魅力(10ページ)について、現職の先生方への前向きなメッセージにもなっており、部活動や課外活動についても記述を厚くしていただいたこ

とに感謝している。

心身の健康については、心身の健康があつて子どもたちが活躍できると思うので、「はじめに」(1ページ)に「子どもたちが心身健やかで豊かに育つことができる」という記述があるとよいのではないか。

「高等教育機関の役割」(12ページ)について、「成果を社会に還元する地域貢献を実施することが求められています」という表現は、要求されているような意味合いが強いため、連携するという記述の方がよいのではないか。

教育施策大綱の内容を具体的に実施する際には、評価を適切に行うことも大切。

- 非常にまとまりのあるよい大綱になったと思う。教育は教えるだけでなく、育む部分と一体となることにより教育になる。教育政策の効果を評価することは非常に難しいが、新たな大綱のもとで施策が実施され、検証が行われることにより、三重の社会が変わっていくことを期待している。

- 計画を立てるときに外してはならない項目が網羅されており、よいと思う。

今回の大綱は構成が特徴的だと思う。中でも5本の柱の中で、いじめや不登校、自己肯定感など、特に知事が大事にしたいことを最初に持っていることについて、知事の思いが出ているものになっていると感じた。

新しく策定する大綱は大きな方針を示したうえで、みえ元気プランの該当部分を参考資料として掲載するという手法をとっており、県の総合戦略との関係もわかりやすくなったのではないか。

今後は丁寧に議会の意見もいただき、ブラッシュアップしていくことが大事。

- ◎ 学校教育に対する期待が非常に大きいということはあるがたいことであり、今後は議会も含めて県を挙げての取り組みにしていきたい。

ChatGPTなどの新しい技術が出てくる中で、教育施策大綱をふまえて、教育現場で具体的にどのような形に対応していくのかが今後の大きな課題ではないか。

高等教育機関には、大学だけではなく高等専門学校も含まれるので、多様な連携した取組が進められることを期待する。

- ◎ これまで出された多くの意見に対し様々な観点から修正していただいたと思う。今後は具体の取組につなげていただくことを期待している。

いじめの認知件数の説明(3ページ)について、いじめは小さいうちにできるだけ早期に発見し対応していくことが大事であることから、認知件数を増やすことが重要という記述があるとよいのではないか。

「いじめ問題の克服」(3ページ)について、「いじめではないかとの疑いを持って」という表現は少しネガティブな響きがあるので、「いじめではないかとの問題意識を持って」というような表現にしてはどうか。

自己肯定感について、記述を充実していただき感謝している。自己肯定感の定義（５ページ）について、「自分自身に対する肯定的な気持ち」という表現よりももう少し踏み込んで、「自分自身をかけがえがない存在として思う気持ち」や、「自分自身を価値ある存在として認める気持ち」といった表現にすると自己肯定感のイメージが膨らむのではないか。

- ◎ 多くの意見に対し修正していただき感謝している。今後は具体的な施策で何を打ち出していくかということが大事。

「学校における学び」（２ページ）について、「個別最適な学び」と「協働的な学び」はセットで考えられていることから、「個別最適な学び」の要素があるとよいのではないか。また、特別支援だけでなく支援が必要な子どもたちはたくさんいるので、周りの子どもや、保護者、社会の理解が進められるよう、環境をつくっていくことが大事。

「学校における取組」（６ページ）にある「お互いの考え方や感性等に触れて刺激し合う中で」について、それぞれが違う考えを刺激し合うだけではなく、さらに踏み込んで「お互いの考え方の違いを尊重しながら、理解を深め」という表現にしてはどうか。

「自律した学習者の礎づくり」（８ページ）の「自立」と「自律」の言葉の使い分けについて、わかりやすくなったと思う。

「地域との連携・協働」（１１ページ）の「地域学校協働活動」について、本文でもわかりやすい説明があるとよいのではないか。

- ◎ 多くの意見をふまえた記述となっており、充実した大綱になっているように感じる。

コミュニティ・スクールの脚注（１１ページ）の説明について、一文を短くするなどわかりやすい表現にしてはどうか。

「学校安全の推進」（４ページ）について、学校事故に関する記述を加えてはどうか。

- ◎ これまでの多くの意見に対し対応していただいたことに感謝する。前回に比べとても内容が豊かになったと思う。

三重県の大綱に限ったことではないが、一般的に委員からの意見をふまえ、記述内容を追記すればするほど、結果として全体が見えづらくなってしまう可能性があるので、全体構成を明示して、多くの方にわかりやすい形にすることが大切。

ICTの活用に関する記述について、「３ 豊かな社会を創っていく力を育むために」（７ページ）にデジタル社会のあり方などを記述したうえで、「ICTの活用」（１１ページ）の記述があるとよいのではないか。

- 豊かな表現になったということで、評価をいただいて感謝している。

委員から話があったように教育にはゴールがないということと同様に、教育施策大綱にもおそらくゴールはなく、日々変わっていくものである。ただしどこかの時点で行政としては、形を作っていかなければならない。

本日いただいた意見やパブリックコメント、議会からの意見などもふまえ大綱の策定を進めていくが、全体として、わかりにくい大綱にならないよう注意したい。

今回の大綱は特異で、無骨な形かもしれないが、いじめ問題の克服を最初に持ってきたのは私の強い思いでもある。そして自己肯定感についても記述を充実させた。その上で、世界で活躍できる人材を三重県から輩出したい。また、教職の魅力についての記述も加え、非常によい形になったと思っている。

今年度、三重県では全ての子どもが豊かに育つ三重の実現をめざして、みえ子どもまるごと支援パッケージ予算としてまとめたところであるが、施策を変えるだけでは十分ではないと思う。今回の大綱と、パッケージ予算が車の両輪として、子どもたちがニコニコと笑って育っていけるような三重にしたい。